

本巢市地域おこし協力隊  
山口歩那



本巢市地域おこし協力隊

# プロフィール

山口 歩那 (やまぐち あいな)

1991年1月生まれ 佐賀県出身

岐阜県立情報科学芸術大学院大学 修了 (2015.3)

岐阜県本巣市地域おこし協力隊 (2015.4~)

KAKKO E合同会社 共同創業者 (2016.2~)

一般社団法人メディア・アンド・クラフツ 理事 (2016.3~)

デザイン思考と美術教育の視点からICT教育のあり方を思考したり、STEMワークショップを設計・実施したりしている。



# 本巣市地域おこし協力隊

## 岐阜県本巣市北部地域（根尾・外山）

- 福井県と隣接する山間地域。少子高齢化による過疎化が進んでいる。
- 2012年から「本巣市地域おこし協力隊」を設置。
- 現在は4人の協力隊が活動している。
- 任期後の定住率は9割。



本巣市地域おこし協力隊facebookページ  
[www.facebook.com/motosu.okoshi/](http://www.facebook.com/motosu.okoshi/)

# 地域おこし協力隊への志望理由

- 研究フィールドにできそう
  - 院修了後、地方でのICT・STEM教育の普及方法について研究するフィールドを探していた。当時本巢市の協力隊は活動ミッションのない自由型だったため応募ができた。
- 都心で働きたくない
  - 人混みが苦手。満員電車で耐えられない。
- 勤務形態や勤務時間が自由
  - 本巢市の協力隊は非雇用型なので、勤務スタイルを自由に設定できダブルワークも可能。任期後の働き口を作りやすい。地方で働くための準備期間に当てられる。

# 協力隊での活動

学部の際に学んだグラフィックデザインを活かしつつ、ICT・STEM教育の普及やキャリア教育を行っていった。

- ▶ **1年目**は地域の特性を学ぶため様々な行事やイベントに参加、また大学院と連携してフィールドワークを行なった。
- ▶ **2年目**からは起業したこともあり本格的に広告デザインを提案、作成し始めた。活動拠点の場所ができたためワークショップも開催し始めた。
- ▶ **3年目**は1年目で学んだ地域の特性と2年目に始めた広告デザインの経験を活かし、映画制作プロジェクトを開始し、今に至る。

## 主な活動

- 広告デザイン
- ICT、STEM教育
- キャリア教育と多様なキャリアの周知



# 広告デザイン

本巢市や地元企業のフライヤー、パンフレットの作成、企画の提案



NEOTOYAMA LIFE /本巢市移住定住ガイドブック



ねおとやまオープンヴィレッジ/田舎暮らし体験ツアーのフライヤー



地元米のステッカーデザイン



能郷白山 山バッチ



森林セラピーロード案内看板

# ICT、STEM教育

地域の子供向けのワークショップや出前授業



ひかる七夕飾り作り



スピーカーをつくろう！



ラベルデザインをしてみよう



オリジナルラジオを作って放送してみよう



# キャリア教育と多様なキャリアの周知

## 映画制作プロジェクト

- 根尾発、全編根尾ロケの映画を制作するプロジェクト
- 都会の大規模な制作会社でなくても、地方だけで映画のような大規模なメディアを制作できることを地域の方々に知ってもらうことが目的
- 脚本家に根尾をテーマに脚本制作を依頼し、監督・カメラマン・音声など実際に第一線で活躍している方を制作スタッフに召集して本格的な映画制作をしている
- メインキャストも根尾、本巣、岐阜に関連のある方に協力していただき、サブキャストやエキストラには根尾地域の方に参加していただいた。
- おそらく協力隊で映画制作は初。





# 協力隊としての活動の軸

都会でなくても都会でやっているような仕事ができることを  
体現し、それを地域の方々に見てもらおうこと。

- ➡多様な職業のイメージを知ってもらうことで、将来像への視野が  
広がり、地域で育ったこどもたちが高校、大学を経て再び戻って  
くることを狙っている。

# 活動している上で感じた課題

- 活動予算が扱いにくい

- 予算の使い方に制約がある。公共の利益を過剰に求められる場合や、上限の中で実行しなければならない。その場合に補填するための資金を探したり取ってきたりする余裕や手段がない。

- 仕事とのバランスが取りづらい

- 退任後を見据えて起業をした場合、会社と協力隊の仕事のバランスが取りにくい。退任後も暮らしていくためには会社を軌道に乗せなければならないが、会社の仕事を増やすと協力隊の仕事をする時間が取れなくなるためワークバランスが難しい。

※こういった課題があるにもかかわらず、本巢市の協力隊担当職員の方は最大限隊員の希望を叶えてくれている。協力隊の活動には担当職員の方との連携が非常に重要だと思われる。

# 退任後の予定

- 主に任期中に設立したKAKKO E合同会社で仕事をしながら根尾で暮らしていく予定
- 引き続き地方でも仕事を作りながら生活ができることを体現していきたい。



# 根尾で暮らす理由

- 運転しやすい
  - 道路が広く交通量が少ないため運転が苦ではない。
- 単身用アパートがある
  - 単身で空き家は広すぎるしコスパに合わないため、単身用のアパートがあるのは非常に暮らしやすい。
- インターネットが混まない
  - インターネットを利用する人が少ないため、光回線でなくてもストレスなく使える。
- 主要市街地にアクセスしやすい
  - 岐阜市や大垣市など岐阜の主要都市に同じくらいの時間で向かうことができるので仕事の打ち合わせなどがしやすい。